

岡山県倉敷高等女学校・岡山県立倉敷精思高等学校・

岡山県立倉敷青陵高等学校 ハンドボール部の輝かしい歴史

## 沿革

昭和 3年4月 1日～ 岡山県倉敷高等女学校

昭和23年4月 1日～ 岡山県立倉敷精思高等学校

昭和24年8月31日～ 岡山県立倉敷青陵高等学校

## 表彰

昭和27年 第2回日本スポーツ賞・ハンドボール部門賞

新山末子さん (倉敷青陵高校OG・国内女性ではじめての受賞)



## 歴史

1937年 昭和12年 **日本ハンドボール界 最初の年**

■第1回東西対抗(国民精神作興体育大会関西大会)(11月21日・南甲子園運動場)

女子対抗戦 倉敷高女 8(3-2、5-2)4 生野高女(大阪)

**優勝**

【出場メンバー】

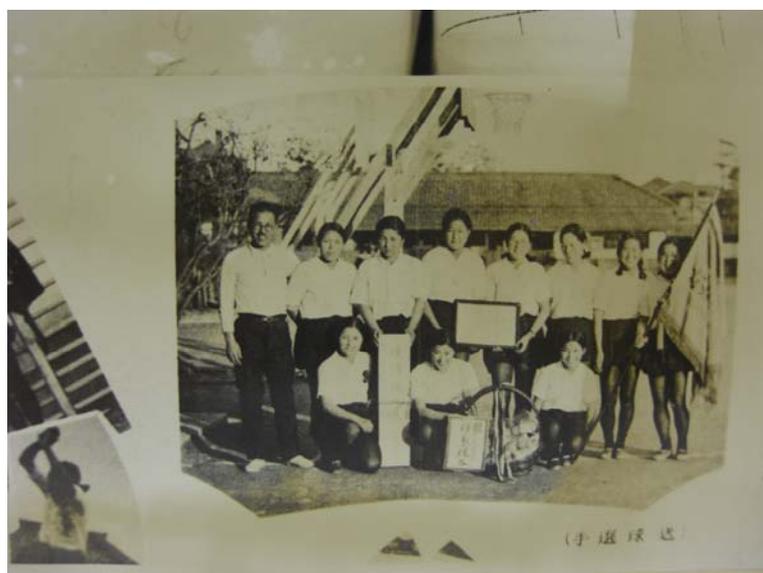
監督 畔柳峰次郎

選手 江本秀子、西山サダ子、岡村恵美子、山本猪久子、目黒松江、  
襟立静子、吉田素子、高橋香、岡本節、友杉輝子、難波和恵、  
田辺美代子、菅沼美代子、川上千恵子、

この試合は、日本協会が関与した史上初の女子の公式戦といわれる。



「優勝の写真」



「優勝の写真」

### 「在職中の思い出」

昭和10年頃、県の岩野体育主事の指導により、ハンドボールが男女中学校に実施され倉女でも盛んに行われて、放課後毎日各組対抗のリーグ戦を実施し全校生徒が参加するようになって、ついにハンドボールを校技に決定したのです。それ以来、優秀選手が続出して県大会では毎年優勝するようになりました。この頃にはまた毎月の遠足（徒歩で20km位）、10,000m競争（全生徒）、文部省制定の体カテストなども実施されたのです。

昭和13年4月松浦後吉校長が就任され羽島の新校舎へ全校移転しました。校舎・運動場その他すべて完備し生徒数も1,000名を突破して名実共に県下一流の高女となりました。

昭和15年の明治神宮体育大会ハンドボール部に出場して準優勝戦で日体大女子部を破り、優勝戦で大阪の梅花高女を倒し優勝旗を獲得して一躍倉女の名声を全国に高めたので

あります。……

私の転勤後は、村山寛先生が体育主任として大変努力され戦後も長くハンドボールは益々隆盛を極め、全国大会でたびたび優勝されたのであります。また、ハンドボール同窓会も作られ現在も続いております。 監督 畔柳峰次郎（大正11年～昭和18年）

1940年 昭和15年

■女子第1回全日本選手権（第11回明治神宮国民体育大会ハンドボール競技）

（10月27日～29日・東京明治神宮外苑競技場、日体グラウンド）

1回戦（1試合） 倉敷高女 不戦勝 茨城女子師範

準決勝 倉敷高女 4（2-1、2-1）2 日体（東京）

決勝 倉敷高女 3（1-2、1-0、延長 0-0、1-0）2 梅花高女

優勝

【出場メンバー】

監督 畔柳峰次郎

選手 西山サダ子、山本猪久子、菅沼美代子、川上千恵子、片山美子、  
田中稔子、横溝里美、三宅良子、三好喜代子、松田雪美、太田静子、  
難波昌子、田辺美代子、岡村恵美子、難波和子



「優勝を伝える当時のスポーツ紙」



「優勝メンバー」



「優勝後 倉敷駅帰着」



「昭和15年10月29日の新聞記事」



「昭和15年10月29日の新聞記事」



「準決勝 日体女子部に楽勝」

1942年 昭和17年

■女子第2回全日本選手権（10月24日～25日・日体、青山師範）

1回戦（＝準決勝） 倉敷高女 3—2 梅花高女（大阪）

決勝 倉敷高女 3（2—0、1—2）2 津山高女

優勝

【出場メンバー】

監督 村山寛

選手 田中稔子、中田貞水、三宅濤子、土倉節子、大浜文子、野口恭子、  
原田満寿子、岡本孝子、三宅弥恵子、渡辺佐登子、山本幸子、

中村寿美枝、



「優勝メンバー」

1946年 昭和21年

■第1回国民体育大会（第1回全日本送球競技大会）（11月1日～3日・西宮球技場）

一般女子（第1回は女子一般として実施、実際は高女）

決勝 倉敷高女ク 2-3 豊中高女ク（大阪）

2位

【出場メンバー】

監督 村山寛

選手 寺崎昭子、田中稔子、三宅濤子、土倉節子、原田満寿子、岡本孝子、  
山本幸子、中村寿美枝、守谷美奈子、田関貞子、野口恭子、

1947年 昭和22年

■西日本ハンドボール選手権大会（1月8日・大阪府豊中中学校校庭）

優勝

【出場メンバー】

監督 村山寛

選手 中野美佐穂、野島芙佐子、西本登久子、三宅澄枝、荒木和子、  
守屋房子、久保才子、亀山智子、小林淑子、桐野尚子、

■東西対抗ハンドボール選手権大会（2月6日・尾張一の宮市一の宮高女校庭）

女子 倉敷高女（西代表） 1-0 足利高女（東代表）

優勝

【出場メンバー】

監督 村山寛

選手 中野美佐穂、野島芙佐子、西本登久子、三宅澄枝、荒木和子、

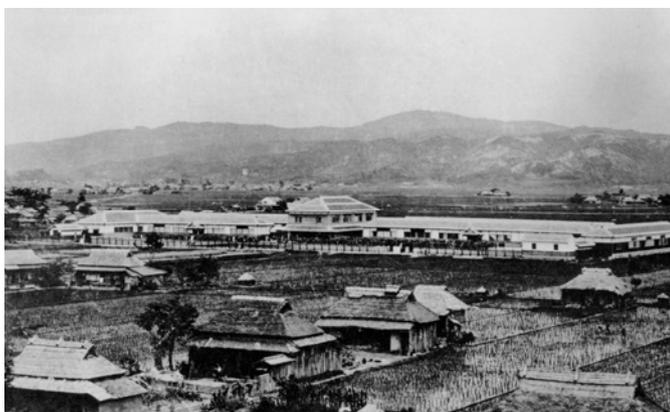
守屋房子、久保才子、亀山智子、小林淑子、桐野尚子、藤原美智子、

■第2回国民体育大会（10月30日～11月2日・石川県金沢市）

中学女子	1回戦	倉敷女	7-0	石川二女（石川）
	準々決勝	倉敷女	3-2	東京第一師範予科
	準決勝	倉敷女	11-1	明石女
	決勝	倉敷女	0-3	茨木女

2 位

ハンドボールは練兵場跡で行われた。草が生え、デコボコで荒れて大変な競技場だったが、誰一人文句も言わず懸命にやったものだ。それから初めて天皇陛下が御臨席され、大勢並んでいる中で、ただ一人前に進み出て3m前に立って写真を撮った。手が震えて撮りにくかったが、3枚撮った中で1枚が良かった。監督 村山寛



「精思・倉高女の旧校舎」

1948年 昭和23年

■第1回東西選抜対抗（1月25日・ナイルキニック・スタジアム）

女子 倉敷高女（西軍） 7（4-1、3-0） 1 第一師範・東京（東軍）

優勝

■第3回国民体育大会（10月30日～11月3日・福岡県久留米市）

高校女子	2回戦	倉敷精思	3-2	小豆島（香川）
	準々決勝	倉敷精思	8-3	足利（栃木）
	準決勝	倉敷精思	6-0	岡崎市立（愛知）
	決勝	倉敷精思	5（2-2、3-4）	6 春日丘（大阪）

2 位

久留米駅新築駅前ブリジストン会社だけ残り他は、焼野原で列車も雨が漏っていた。道路べりの靴屋で、生徒が靴の裏打ちをして値段を聞いたら、最初言ったのは片方の値段との事にて片方だけで止めさせたこともありました。子供を馬鹿にしている悪い者が多かった。監督 村山寛

監督 村山寛

■第3回西日本高校選手権 女子の部 優勝

1949年 昭和24年

■第2回東西選抜対抗（2月6日・愛知県一宮市）

女 子 倉敷高女（西軍） 2（1-1、1-0） 1 足利女・栃木（東軍）

優 勝

■ 第4回西日本高校選手権 女子の部



1950年 昭和25年

■西日本ハンドボール選手権大会東西対抗予選会（1月3日～5日・倉敷市野球場）

女 子 準決勝 倉敷青陵 2-1 加治木

決 勝 倉敷青陵 1-2 寝屋川（大阪）

2 位

■第1回インターハイ（8月8日～12日・大阪府・藤井寺）

女 子 2回戦 倉敷青陵 8-1 小松（石川）

3回戦 倉敷青陵 4-0 熊本（熊本）

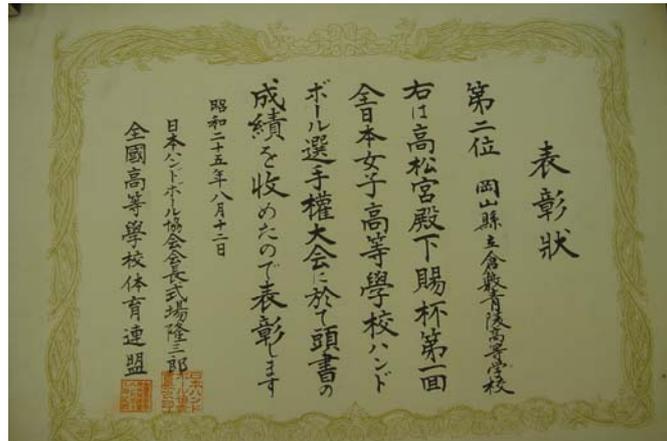
準々決勝 倉敷青陵 6（3-1、3-0） 1 明石（兵庫）

準決勝 倉敷青陵 5（3-1、2-1） 2 落合（岡山）

決 勝 倉敷青陵 5（3-2、1-2、0-1、1-1） 6 操山（岡山）

2 位

青陵の前衛中央、坪井富貴子さんが3回戦後に心臓脚気で倒れ補欠と交替最悪事態が起きた。選手は大阪の宿舎に、病人と私は藤井寺の宿に入ったが、午後6時より翌朝まで意識無く心配した。試合どころではなかった。 監督 村山寛



■第5回国民体育大会（10月28日～11月1日・愛知県一宮市）

一般女子 1回戦 青陵OG 19-1 筑紫ク（福岡）  
 準決勝 青陵OG 5（1-1、4-1）2 小松ク（石川）  
 決勝 青陵OG 3（1-1、2-1）2 大阪ク  
**優勝**

【出場メンバー】

監督 永井正

選手 中野美佐穂、藤原恒子、守谷美奈子、丸山郁子、松枝佳子、  
 井上美弥子、野島美佐子、西本登久子、三宅澄枝、荒木和子、  
 久我歳子、寺崎秋子、大隈香代子、

高校女子 1回戦 倉敷青陵 12-1 筑紫中央（福岡）  
 準々決勝 倉敷青陵 7-1 宇都宮（栃木）  
 準決勝 倉敷青陵 3（2-0、1-0）0 瑞陵（愛知）  
 決勝 倉敷青陵 4（1-3、3-2）5 春日丘（大阪）  
**2位**

■第5回西日本高校選手権 女子の部 **優勝**



■第1回西部日本高校選手権 女子の部 優勝



■第1回中国高校選手権大会 女子の部 優勝

1951年 昭和26年

■第2回インターハイ (6月12日～15日・東京都・駒沢)

女子	2回戦	倉敷青陵	9-0	熊本市立 (熊本)
	準々決勝	倉敷青陵	6 (3-0, 3-1)	1 涌谷 (宮城)
	準決勝	倉敷青陵	8 (5-1, 3-1)	2 大谷 (大阪)
	決勝	倉敷青陵	11 (6-0, 5-1)	1 春日丘 (大阪)

優勝

【出場メンバー】

監督 村山寛

選手 新山末子、谷口田鶴子、槇野婦美子、植田治子、岡本秀子、  
白神喜美子、北村富貴子、加門良子、白神しげる、小松原久栄、  
山本仙、岡一子、田辺信子、藤崎栄子、加治みよ子、

大優勝旗高松宮賜杯、ハンドボール協会杯、東急楯、大メタル個人1個頂く、白神さん倒れた。

参加100チームの中で優勝し、この時は帰路倉敷駅頭で歓迎会が行われ市長はじめ市民多数の出迎えを受けて、市内を大優勝旗、カップ、楯、商品等を持って学校まで帰る足取りは軽く、胸を張って歩くことの喜び、今でもその感激を忘れることはできません。

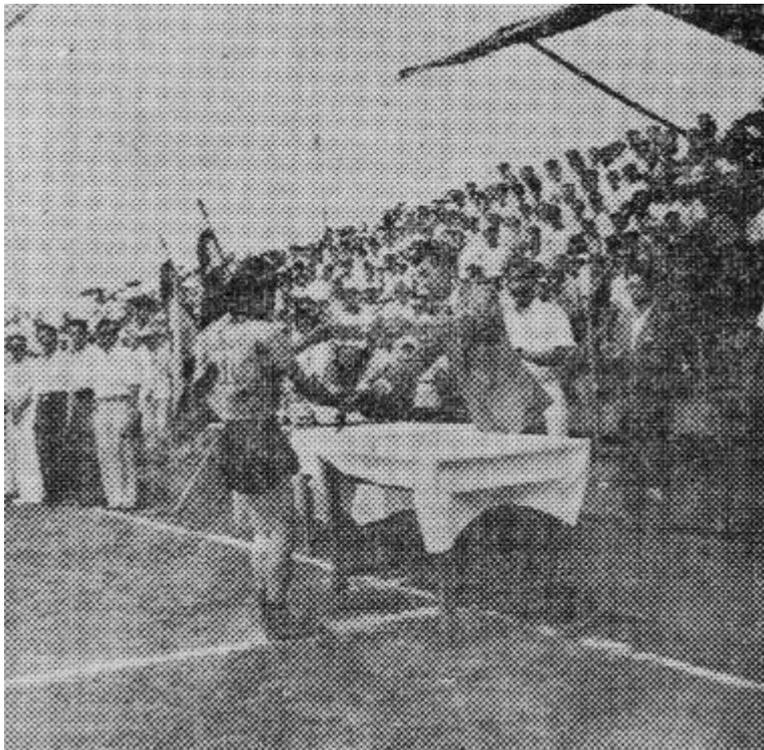
監督 村山 寛



「メンバー集合写真」



「優勝チーム」



「優勝の授賞式」

■第6回国民体育大会（10月27日～31日・広島市）

一般女子 1回戦 岡山ク（中国） 5－4 石川小松ク（北陸）  
準決勝 岡山ク（中国） 4－1 函館ク（北海道）  
決 勝 岡山ク（中国） 7（1－1、6－1）2 大阪ク（近畿）

優 勝

【出場メンバー】（倉敷青陵OG）

監督 永井正

選手 藤原恒子、丸山郁子、松枝佳子、井上美弥子、大隈香代子、安田郁子、  
小橋和子、小林淑子、三宅弘子、亀山智子、白石孝子、渡辺久子、  
常安幸子、

高校男子 準々決勝 岡山 11-3 兵庫工（兵庫）  
準決勝 岡山 7-5 盛岡一（岩手）  
決勝 岡山 5（2-5、2-4）9 桜台（愛知）

2 位（岡山は、操山高校主体。青陵高校からも選抜された様子）

高校女子 準々決勝 倉敷青陵 5-0 八尾（富山）  
準決勝 倉敷青陵 11-2 函館中部（北海道）  
決勝 倉敷青陵 5（3-3、2-1）4 涌谷（宮城）

優勝

【出場メンバー】

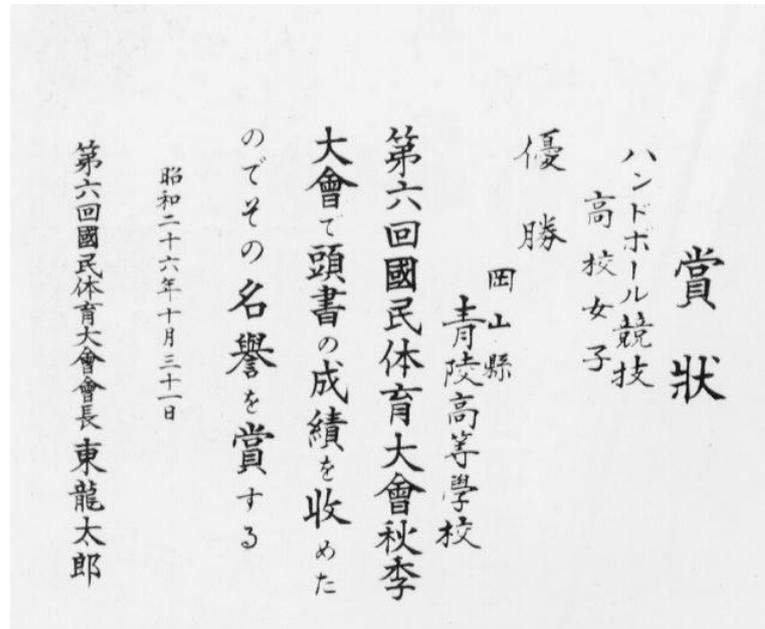
監督 村山寛

選手 新山末子、山本仙、白神しげる、小松原久栄、白神喜美子、  
北村富貴子、加門良子、岡本秀子、谷口田鶴子、槇野婦美子、  
植田治子、岡一子、千田緑、

天皇皇后杯とも第1位、会場より喜びの声をNHKを通して村山寛先生が放送。



「優勝チーム」



#### 「優勝の賞状」

- 第2回西部日本高校選手権 女子の部 優勝
- 第2回中国高校選手権大会 女子の部 優勝

「輝かしいハンドボール部」

村山寛

ハンドボール競技は、ドイツより入った種目であって、昭和12年頃岡山県に於いても当時の体育主事だった岩野次郎先生に依って伝達講習され急速に普及し、日本でも1番早くこの競技に取り組んだものです。最初の頃の試合にバスケットの選手を早変わりさして出場させたと聞いております。

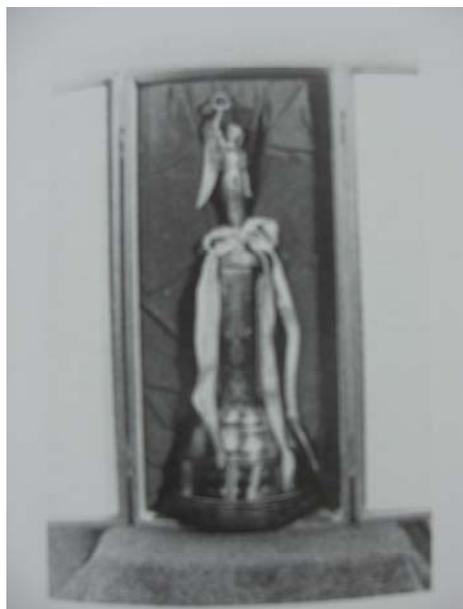
この競技の名称も送球から手球に更にハンドボールと改称され、今日に至った次第で競技規則も度々変更になりました。

当時11人制でコートも男女共同じてあって女子には無理であったように感じました。コートの長さ120mと幅65mでした。試合時も今と変わらぬ前半20分、休憩10分、後半20分、同点の場合は延長で10分・10分・休憩・5分・5分でしたので、相当の距離を走るようになります。従って、体力とチームワークと強い精神力が必要です。それは、日頃の猛練習に耐えて強い根性が出来ていたからやれたものと思います。

ハンドボールの倉女、倉女のハンドボールかと言われるようになったのも先輩・畔柳峰次郎先生の指導よろしきを得たことと考えます。従って、ハンドボール部の卒業生達が卒業以来毎年1回集まり、先生を迎え昔の思い出を話し合う美しい会合に列席して感じることは、スポーツを通して苦しい練習を共にし優勝をした喜びに涙を流したこと、また戦いに敗れて流した涙こそ永遠に心から離れることのできない物であることをつくづく感じました。これが先生を慕うことになるのでしょう。

1952年 昭和27年

■第2回日本スポーツ賞（東京読売新聞社） 新山末子（国内女性ではじめての受賞）



■第3回西部日本高校選手権（5月30日～31日・広島県福山市）

女子 決勝 倉敷青陵 5-1 山口（山口）

優勝

■第3回インターハイ（8月14日～17日・大阪府藤井寺）

女子 1回戦 倉敷青陵 10-2 小松（石川）

2回戦 倉敷青陵 8-1 那賀（和歌山）

準々決勝 倉敷青陵 9（7-3、2-3）6 平沼（神奈川）

準決勝 倉敷青陵 9（4-3、5-3）6 春日丘（大阪）

決勝 倉敷青陵 4（2-3、2-2）5 寝屋川（大阪）

2位

■第7回国民体育大会（10月19日～23日・福島市）

一般女子 1回戦 倉敷青陵OG（中国） 13-9 涌谷ク（東北）

準決勝 倉敷青陵OG（中国） 8-4 東京ク（関東）

決勝 倉敷青陵OG（中国） 7（3-4、4-2）6 大阪ク（近畿）

優勝

【出場メンバー】

監督 永井正

選手 山本仙、可児美代子、大隈香代子、槇野婦美子、谷口田鶴子、  
新山末子、小松原久栄、北村富貴代、野島芙佐子、白神手、小林淑子、  
亀山智子、石井千代子、

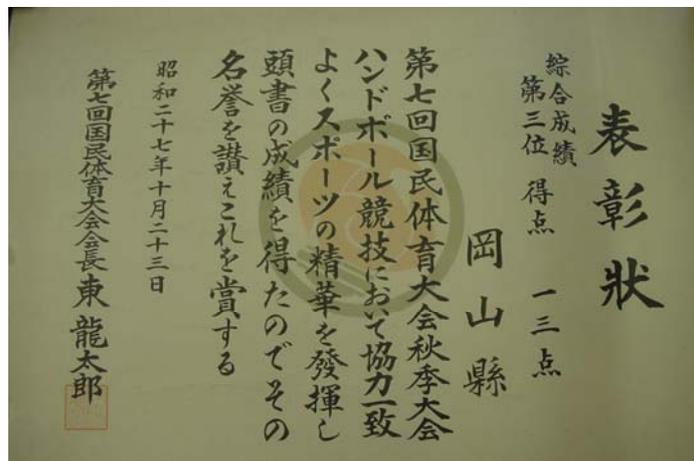
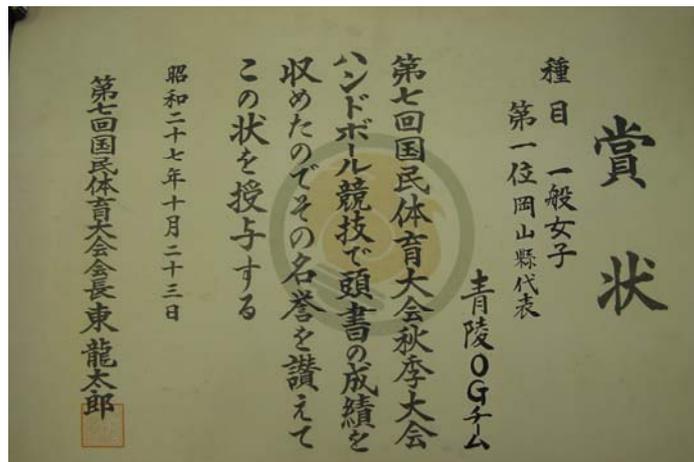
高校女子 2回戦 倉敷青陵 11-2 明善（福岡）

準々決勝 倉敷青陵 8-14 静岡城北 (静岡)

5 位



「倉敷青陵OG 優勝チーム」



1953年 昭和28年

■第4回インターハイ (8月20日～23日・東京都・駒沢)

女子 1回戦 倉敷青陵 8-7 明善 (福岡)  
2回戦 倉敷青陵 4-3 江南 (神奈川)  
準々決勝 倉敷青陵 2 (1-3、1-3) 6 城北 (静岡)  
5 位

■第8回国民体育大会 (10月22日～26日・愛媛県今治市)

一般女子 準々決勝 倉敷青陵OG (岡山) 5-4 東京ク (東京)  
準決勝 倉敷青陵OG (中国) 4-7 静岡城北ク (静岡)  
3位決定 倉敷青陵OG (中国) 12-3 小松ク (石川)  
3 位

高校女子 1回戦 倉敷青陵 5-4 涌谷 (宮城)  
準々決勝 倉敷青陵 5-1 呉三津田 (広島)  
準決勝 倉敷青陵 3-8 稲沢 (愛知)  
3位決定 倉敷青陵 7-10 函館中部 (北海道)  
4 位

■第4回西部日本高校選手権 女子の部 優勝

■第4回中国高校選手権大会 女子の部 優勝

1954年 昭和29年

■第5回インターハイ (7月30日～8月4日・大阪府・藤井寺)

女子 2回戦 倉敷青陵 6-1 小松 (石川)  
3回戦 倉敷青陵 5-2 明石 (兵庫)  
準々決勝 倉敷青陵 0 (0-3, 1-4) 7 寝屋川 (大阪)  
5 位

■第9回国民体育大会 (8月22日～26日・北海道函館市)

一般女子 1回戦 青陵ク (岡山) 8-4 高岡ク (富山)  
準決勝 青陵ク (岡山) 7 (4-3、3-6) 9 稲沢OG (愛知)  
3位決定 青陵ク (岡山) 9 (3-3、6-3) 6 熊本ク (熊本)  
3 位

高校女子 準々決勝 倉敷青陵 7-3 今治西 (愛媛)  
準決勝 倉敷青陵 3 (1-4、2-3) 7 稲沢 (愛知)  
3位決定 倉敷青陵 6-9 明善 (福岡)  
4 位

直前のインターハイにおける雪辱をと張り切っていた私たちでしたが、準決勝の稲沢戦を前にチームの半数が食中毒に罹り最悪のコンディション。その時の口惜しさは生涯忘れられない。

三宅節子

■第5回中国高校選手権大会 女子の部 優勝

1955年 昭和30年

■第6回インターハイ (8月14日～17日・東京都・駒沢)

女子 1回戦 倉敷青陵 11-0 左京二 (千葉)  
2回戦 倉敷青陵 6-2 那賀 (和歌山)  
準々決勝 倉敷青陵 3-7 城北 (静岡)

5位

■第10回国民体育大会 (10月31日～11月3日・神奈川県平塚市)

高校女子 準々決勝 倉敷青陵 4 (1-5、3-2) 7 水海道二 (茨城)

5位

■第6回中国高校選手権大会 女子の部 優勝

1956年 昭和31年

■第7回インターハイ (8月15日～20日・大阪府・藤井寺)

女子 1回戦 倉敷青陵 2-1 平塚江南 (神奈川)  
2回戦 倉敷青陵 7-5 筑紫中央 (福岡)  
準々決勝 倉敷青陵 2 (0-7、2-5) 12 寝屋川 (大阪)

5位

■第11回国民体育大会 (10月28日～11月1日・兵庫県加古川市)

一般女子 1回戦 青陵ク (岡山) 3-10 北星ク (北海道)

1957年 昭和32年

■第8回インターハイ (8月6日～11日・愛媛県松山市)

女子 1回戦 倉敷青陵 2-1 足利女 (栃木)  
2回戦 倉敷青陵 3-1 洗足学園 (東京)  
準々決勝 倉敷青陵 0 (0-2、0-4) 6 静岡城北 (静岡)

5位



■第12回国民体育大会（10月26日～30日・静岡県清水市）

一般女子 1回戦 倉敷青陵OG 1-8 日体大（東京）

高校女子 1回戦 倉敷青陵 7-4 四日市（三重）

準々決勝 倉敷青陵 4（1-2、3-3）5 寝屋川（大阪）

5 位

1958年 昭和33年

■第9回インターハイ（8月6日～10日・北海道函館市）

女子 1回戦 倉敷青陵 5-0 足利女（栃木）

2回戦 倉敷青陵 5-7 山梨（山梨）

■第13回国民体育大会（10月19日～23日・富山県氷見市）

一般女子 1回戦 倉敷青陵OG 1-5 梨窓ク（山梨）

高校女子 1回戦 倉敷青陵 8-17 明善（福岡）

■第9回中国高校選手権大会 女子の部 **優勝**

1959年 昭和34年

■第14回国民体育大会（10月25日～30日・東京・駒沢）

一般女子 1回戦 青陵OG 4-5 涌谷OG（宮城）

1960年 昭和35年

■第11回インターハイ（7月31日～8月4日・岡山県倉敷市・倉敷青陵高校）

女子 2回戦 倉敷青陵 4-抽選勝-4 山梨（山梨）

3回戦 倉敷青陵 3-6 静岡城北（静岡）



「高松宮夫妻、インターハイ臨席のため来校」

1961年 昭和36年

■第13回全日本総合選手権（8月13日～17日・倉敷市・倉敷青陵高校）

女子 1回戦 青陵ク 8-7 清水女商（静岡）

準々決勝 青陵ク 没収試合 三国ヶ丘ク（大阪）

**5位**

高松宮、大会に臨席のため来校。

■第16回国民体育大会（10月9日～12日・秋田県大曲市、湯沢市）

一般女子 1回戦 全岡山 7-3 函館フレップ（北海道）

準々決勝 全岡山 3-5 大阪ク（大阪）

**5位**



「グラウンドにて11人制と7人制のハンドボールを練習」

1962年 昭和37年

■第17回国民体育大会（10月21日～26日・岡山県倉敷市・倉敷青陵高校）

一般女子 準々決勝 全岡山 12-10 日体大（東京）

準決勝 全岡山 5（2-4、3-7）11 大洋デパート（熊本）

3位決定 全岡山 6（4-6、2-5）11 大阪ク（大阪）

4 位

国体ハンドボール競技臨席のため天皇・皇后陛下来校。



「東新館（現3館）北庭に天皇陛下をお迎えする」

1963年 昭和38年

- 第18回国民体育大会（10月28日～11月1日・山口県徳山市）  
一般女子 1回戦 全岡山 6-8 レナウン大阪（大阪）  
(青陵高校OGの登録は、不明)

1964年 昭和39年

- 第19回国民体育大会（6月7日～11日・新潟県柏崎市）  
一般女子 1回戦 全岡山 8-2 涌谷高OG（宮城）  
準々決勝 全岡山 6-12 大洋デパート（熊本）  
5位（青陵高校OGの登録は、不明）



「全国高体連より表彰」

1965年 昭和40年

- 第20回国民体育大会（10月25日～29日・岐阜県高山市）  
一般女子 1回戦 全岡山 19-6 函館ク（北海道）  
準々決勝 全岡山 4-14 揖斐川電気（岐阜）  
5位（青陵高校OGの登録は、不明）

1966年 昭和41年

- 第21回国民体育大会（10月24日～28日・大分市）  
一般女子 1回戦 全岡山 9-12 東京重機（神奈川）  
(青陵高校OGの登録は、不明)

1996年 平成8年

- 第47回インターハイ（8月1日～7日・山梨県塩山市）  
男子 1回戦 倉敷青陵 14（8-10、6-10）20 不来方（岩手）

1998年 平成10年

- 第53回国民体育大会（10月24日～29日・神奈川県川崎市）  
男子 1回戦 岡山 21（11-9、7-9、延長 3-4）22 北海道

岡山選抜のメンバーで米田勝、塩見広資が参加

2001年 平成13年

■第52回インターハイ（8月1日～7日・熊本県山鹿市）

男子 1回戦 倉敷青陵 12（5-13、7-12）25 不来方（岩手）



2001年 平成14年

■第53回インターハイ（8月1日～7日・茨城県水海道市）

男子 1回戦 倉敷青陵 17（9-11、8-9）20 松山工業（愛媛）



■第57回国民体育大会（10月27日～31日・高知市）

男子 1回戦 岡山 17（8-13、9-7）20 群馬

岡山選抜のメンバーで平井光紀、西尾浩紀、清水信孝、文屋光貴、が参加

日本ハンドボール誌（日本ハンドボール協会 発行）

岡山県立倉敷青陵高等学校創立60周年記念誌

岡山県立倉敷青陵高等学校創立70周年記念誌

岡山県立倉敷青陵高等学校創立80周年記念誌

岡山県立倉敷青陵高等学校創立90周年記念誌

岡山県立倉敷青陵高等学校創立100周年記念誌

創立100周年回顧展における写真集

から編集致しました。

氏名や内容等に誤りがある場合は、倉敷青陵高等学校ハンドボール部  
までご連絡をお願い致します。